

# 授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の英語の未来へボタンをつなぐ

令和4年9月発行  
西部教育事務所

昨年度より、清水中学校を英語科授業づくり講座の拠点校とし、授業づくりを学んできました。今回は「読むこと」とICT活用に焦点を当てるとともに、過年度の教科書を活用する提案をしています。教材研究会（6月9日（木））、授業研究会（7月13日（水））の様子を紹介します。



西部管内の  
講座関係HP

教材研究会 令和4年6月9日（木） 第2年 Unit4 Homestay in the United States 「読むこと」イ  
協議の視点 単元で育成を目指す資質・能力「読むこと」イを育成するための単元構想となっているか

日々の授業で「読むこと」の領域をどのように指導していますか？  
今回の授業づくり講座教材研究会では「読むこと」への理解を深め、どのように「読むこと」の力を育成していくかに焦点を当てて協議を行いました。



## ◎学習指導要領からみる「読むこと」の指導ポイント

読むこと	
ア	<p>日常的话题について、簡単な語句や文で書かれたものから<b>必要な情報</b>を読み取ることができるようにする。</p> <p>(ア) 黙読したり、音読したりする活動。 (イ) 広告やパンフレット、予定表、手紙、電子メール、短い文章などから自分が必要とする情報を読み取る活動。</p>
イ	<p>日常的话题について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の<b>概要</b>を捉えることができるようにする。</p> <p>(ウ) 短い説明、エッセイ、物語などを読んで概要を把握する活動。</p>
ウ	<p>社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の<b>要点</b>を捉えることができるようにする。</p> <p>(エ) 社会的な話題に関する説明、イラストや写真、図表なども参考にしながら、要点を把握する活動。その内容に対する賛否、自分の考えを述べる活動。</p>

領域別目標の確認  
学習指導要領解説p.20～

セットで確認

言語活動の確認  
学習指導要領解説p.58～

ア「必要な情報を読み取る」とは、目的に応じて、また自分の置かれた状況などから判断して必要な情報を把握すること。

※ 書かれていることの全てを読み取るのではないことを生徒に伝えましょう。

イ「概要を捉える」とは、書き手が述べていることの大まかな内容を捉えること。

例えば物語などのまとまりのある文章を最初から最後まで読むことです。

※ 一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとられないように指導しましょう。

ウ「要点を捉える」とは、書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉えること。

例えば説明文などのまとまりのある文章を最初から最後まで読み、含まれている複数の情報の中から読み取ることです。

協議より

- 何のために読むのか、誰に伝えるのか、伝えるべき相手をはっきりさせ、目的・場面・状況を設定する必要があるのではないか。
- 読む量の確保のため、複数の読みものを用意した上で選ばせたらどうか。
- 文化の違いを踏まえたアドバイスをさせてみてはどうか。
- アでは?そもそも「アなのか?イなのか?ウなのか?」と迷う時点で、自分たちはこれまで「読むこと」を扱ってきていなかったのではないか?

Q&A

Q:「読むこと」イとウは似ていますよね。違いは何ですか?

A:「読むこと」イとウは、「文章全体を読み通す点」としては共通していますよね。ただし、ウは「文章全体の大まかな内容を把握するのではなく、文章から複数の情報を取り出し、どの情報とその説明の中で最も重要であるかを判断する」点がイと異なります。詳しくは学習指導要領解説p.21に明記されていますので、違いを押さえた上で指導していきましょう。

Q:生徒が意欲的に読む活動に取り組むにはどうしたらいいですか?

A:読む際にも目的・場面・状況や相手等を考えた上で指導することが大切です。「何のために?」「誰に?」を意識することで、生徒の思考が深まっていきます。

読む目的を持たせて  
最初から最後まで通して読む



読んだことについて、根拠となる箇所を  
"Text says ~."  
"I think ~ because ~."  
などと引用しながら、  
自分の考えや気持ちを述べさせる



今回はここ!

参加者より

- ・「どの力をつけさせたいのか」を明確にして授業をしたいです。
- ・「何のために?」「誰のために?」を大切に、生徒に学ぶ目的や必然性のある「問い」を提示する必要があると改めて感じました。

### Redesignのポイント3点

- ①テキストタイプによっては「読むこと」イがふさわしい場面もあるが、本単元を通して「読むこと」イを主として育成していきたい
  - ②目的・場面・状況を明確にした課題設定を行う。友だちとしてアドバイスをしたり、メールの返事をするようにした
  - ③読む目的を持たせた上で、読む活動を行う③読んだ内容を基に、ICTを活用して海斗にメールの返事を書く
- 以上の3点を踏まえ、清水中学校英語科では何度も何度も検討を重ね単元を練り直しました。並べかえでのICT活用や読ませ方の工夫など、「中学校英語授業改善協議会」での学びを取り入れながらの提案でした。



授業者  
橘 智子 教諭

ALT  
Nakita Pike

### 文部科学省 入之内 昌徳 教科調査官より



学校として英語と総合的な学習の時間を柱に、12年間で土佐清水市を支える人材を育成していく。』という理念や、その実現に向けてTry&Errorしながら学校として授業づくりにチャレンジしているところが素晴らしい。英語を使う楽しさを子供たちに伝えて欲しい。

教科調査官の入之内 昌徳先生にお越しいただきました。ご指導いただいた【授業の際のポイント】の中から、西部管内の先生方の授業づくりに取り入れていただきたい6点を紹介します。

- 『ボランティアが出ない時が堪えどころ!』日頃からボランティアを募ることが大切です。出なくても指名せず、挙げようとする子供を把握し、次のチャンスには「できた!」と思わせたい。学習者として自信をつけさせてあげたいですね。
- 『子供同士の発話量>教師の発話量』になるようにしましょう。「授業は英語を学ぶ場であり、使う場」であるために、子供同士の発話量を増やす工夫が必要です。
- 『子供と単元の目標を共有』しましょう。行き先の分からないバスには乗りませんよね。本単元のゴール、つまり本単元の学びが「どこに向かっているのか」を常に子供たちと共有し、意識しておきましょう。
- 『英語で授業』しましょう。英語で授業をするのは英語での自然なコミュニケーション環境を作るためです。ただし、先生がスラスラと流暢な英語で話すことが目的ではありません。子供たちの発達に合わせて、子供たちに伝えているかを確認しながら、時にゆっくり、はっきり話したり、例を挙げたりしながら子供に思考させることが大切です。また、生徒にも英語でアウトプットすることを求めています。
- 読ませて終わりではなく、『読んだことを確認』しましょう。"Why?"で問うたり"I think..."で言わせたりしましょう。すぐにはできなくても、何度も何度もくり返すことで徐々にできるようになっていきます。
- 教師がすべき役割は『Navigator』です。『子供たちをゴールに誘う伴奏者』です。先生が引っぱって引っぱって...ではありません。学校行事なども目標設定をして子供たちと共有し、子供たちに任せるときは成果が出ますよね。みんなで助け合って一つの共同制作としての活動をした時に、達成感が生まれます。それと同じで、授業も身に付けたい力を明確にセットしたら、それを子供たちと共有し、子供たちに身に付けさせる手立てをみんなで考えていくことが大切です。もっと子供たちに任せてみましょう。

### 本時の授業について

#### 英語で質問し、英語で応答させる

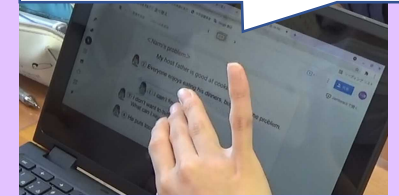
調査官からの突然の問いかけにも、生徒はしっかりと英語で答えようとしていました。



調査官：I have a Question for you.  
Can I ask you a Question?  
生徒：Yes.  
調査官：Is this number 4 right?  
Is this right or not?  
You said 4 2 3 1.  
Is All right? Maybe OK?  
生徒：Ummm... I think ...

#### 生徒のICT活用場面

文を移動させて並べかえができます。友達の考えも見られるといいね!



根拠となる部分を教科書本文から探しています。



#### ワンポイントアドバイス

板書：生徒の発言を全て板書しなくても、キーワードだけでリテリングしてもよい。気づかせることも大切な指導です。  
振り返り：言語面と内容面の両面で振り返らせる。  
ICT：友達の表現の中で自分の発表に活かしたいことに下線を引かせることで、互いに主体的に取り組めるようになる。

#### 参加者より

- ・色んな挑戦を見せてくれて、読む活動、ICTの活用方法など、真似してみたいと思った。ペアでの英語使用をもっとさせていきたい。
- ・私をもっと生徒に考えさせて、生徒主体の授業に改善したいです。